

キリスト教に基づく人格教育とは

小暮 修也

このごろ「キリスト教に基づく人格教育とは何か」について思いをめぐらしている。その一つは創世記1章27節による「個人の尊厳」を指し示すことであり、もう一つはローマの信徒への手紙12章15節による「他者と共に生きる」ことを実践することではないかと考えている。

現代はヒト、モノ、カネ、情報が地球をかけめぐるグローバリゼーションの下で、南北問題はより一層深刻となり、国内でも格差問題が大きくなっている。世界も日本も倫理なきむき出しの競争主義と功利主義に走り、人びとの心が荒廃してきている。以前は、誰が見ていようがいまいが「これはおれが作った建物だ」と誇りをもって語った人がいた。「私が作った食べ物は日本一だ」と矜持ある人がいた。今はもう建物も、肉や米やお菓子も安心できない“偽”の時代となってしまった。大人が模範を示せない時代に子どもたちが育つだろうか。子どもが親を殺し、親が子どもを殺す現代日本の闇に私たちは無関心でよいのだろうか。「個人の尊厳」と「他者と共に生きる」ことが欠けている現代こそ、キリスト教主義学校の出番がある。

*

ところで、今年の夏もまた、高校生52名と共に韓国研修旅行に出かけた。今年は特に竹島(独島)問題が再燃し、韓国の学校との交流会が危ぶまれた。竹島(独島)問題は日本にと

っては領土問題にすぎないが、韓国にとっては1910年に全土が日本に併合される一里塚としての竹島編入(1905年)という歴史問題となっている。韓国政府から交流している京花(キョンガ)女子高校に日本の学校との交流を中止するよう要請が出たが、京花女子高校の校長先生たちは「明治学院は戦争責任告白を出している日本で唯一の学校であり、韓国人の心を最も理解している学校である」と政府を説得し、交流が実現できた。

若い韓国と日本の高校生が楽しく語り合い、ゲームをし、歌を歌っている姿は私たちが理想とした光景である。1963年に、キング牧師は『I have a dream.』というスピーチを行い、その中で「私たちのかわいい男の子や女の子が、白人のかわいい男の子や女の子と、兄弟のように手を取り合うことができるようになる夢が、私には、今日、夢があります」と述べた。このように韓国の若い人と日本の若い人が兄弟のように信頼し合う関係になることが、私たちの夢でもある。しかし、そのためには日本の犯した罪の歴史に向き合わなければならない。

いつも高校生にこう語っている。「過去を隠したり、変えたりしてはならない。けれども、未来は君たちの手によって変えられる」と。過去の歴史を知らずに未来は語れない。歴史を学ばずに交流すると根の浅いものになるからである。なぜなら、京花女子高校の生徒たちは交代で、ナムムの家(元従軍「慰安婦」が共同で住む家)の掃除や奉仕に出かけていて歴史問題をよく知っているからである。韓国の高校生代表もスピーチで「過去を隠したり、変えたりしてはならない。しかし、未来は私たちの手によって変えられる」と語っていた。帰ってからも高校生同士の交流はさまざまな形で続いている。これからも子どもたちの出会

いを大切にする学校でありたい。

(こぐれ しゅうや

協力研究員・明治学院高校副校長)